

放課後児童支援員キャリアアップ研修レポート テーマ③児童機の発達と遊び

【クラブ】(あおぞらクラブ)

【名 前】(大参凌久)

「負けるのが嫌」「ボールが怖い」という理由で遊びに参加することを嫌う子どもが多数いるなかで、その子たちに対してどのようにアプローチしていけば楽しい気持ちで遊びに参加できるのかに悩んでしまうという指導員さんからのお話があり、そのことについてグループワークの中で少し話し合いました。それぞれのクラブにもそのような理由で遊びに参加しない子どもが少なからず存在する。と言う声が多く上がりました。しかし、どの指導員さんもどのように声を掛けていくかで悩んでしまう、どうすれば負の感情を軽減してあげられるのか難しいという意見も多くありました。講義の中でも、「遊び」=結果が分からない、不確実性を持つものである。というように勝敗の勝ちも負けも楽しめるようにするための働きかけが重要だと感じました。

遊びこそが目的であり子どもの権利であるという言葉聞いて、権利だからという理由だけでなく、そこにいる子どもが安心して安全な環境で思い切り遊べるように配慮していければなと思います。

遊びの現場での「大人の役割」として、手助けをすることで幅（遊びの幅・一緒に遊ぶ子どもの幅）を広げていくことで子どもの「自ら育む力」を刺激することも大人の役割のひとつであるという言葉通りに、子どもだけの力で何かを成し遂げることも必要な場合もありますが時には大人が手助けをすることでより良い環境づくりや新しい体験をすることができるチャンスにもなると感じました。

大人が手助けする場合があったとしてもすべてに手を貸すわけではなくて失敗から学べることも多くあると思うので、子どもが納得するまでいろいろな方法でチャレンジさせていくことも重要な要素のひとつだなと強く感じました。

子どもにとってそこに居る大人も大事な環境の要素のひとつであるというように、その場にいる自分自身の言動でも子どもはさまざまなことを感じると思うので現場に立つ一員としての自覚を持ち、子どもが安心して遊べる環境づくりをサポートしていけたらと思います。